

Interview 「好いとお！福津」でおなじみ Worldさんこと北原常人さん

毎号必ず、広報ふくつへの感想を寄せてくれる北原さん。積極的に意見を発信する熱い市政への思い、子どもたちへの思いを語ってくれました。

「福津の宝もの」に希望を託したい

広報ふくつ200号おめでとうございます。数ある広報の中でも、全国広報コンクールで日本一に輝いた2016年12月1日号で、障がい者差別に対する市の真剣な取り組みを丁寧に伝えていたことが印象に残っています。

最近、SDGsに関する情報が多いですね。人生100年時代を生きる子どもたちにとって大事な目標だと思います。福津市には、ウミガメが来る海、ホテルが舞う山里と黄金の稲穂が揺れる田園があります。これらの貴重な財産は残し、次世代の負担になることは少しでも減らして「福津の宝もの」である子どもたちに未来への希望を託したいです。市民の皆さん、次の8年は知恵を出し合い、笑顔あふれる子どもたちのために「広報ふくつ300号」に向かいましょう。



“ 広報ふくつ200号記念特集 ”



福津市が誕生してからおよそ16年が経過し、広報ふくつは記念すべき200号を迎えました。この節目に、これまでの広報紙を振り返り、その「1行」に魂を込める広報担当者の思いをつづります。

毎号、広報ふくつには、たくさんの市民が登場します。インタビューなどで写真として登場することはもちろん「好いとお！福津」のコーナーでは、広報紙や市政への意見や感想といった、言葉だけで登場する市民もいます。行政の伝えたい情報だけが掲載された広報紙より、市民の皆さんの率直な声は読み応えがあり、読者を楽しませます。今後も、皆さんの意見や感想をお待ちしています。

市民が参加してこそ
の
広報紙

だからこそ、文章だけでなく、撮影する写真やレイアウトにも工夫が必要です。楽しそうに遊ぶ子どもや真剣に作業する大人の表情、キラキラと輝く海岸に、美しい花。言葉よりも簡単に、瞬時にその素晴らしさと雰囲気や伝えられるのが写真です。撮影する角度や光の当て方、シャッターを押すタイミングにこだわり、納得のいく写真が撮れるまで撮り続けます。また、写真の配置や大きさ、見出しの位置などのレイアウトも細部までこだわります。

伝える広報紙を
つくり続ける

全国的に有名な元広報担当者が研修会で語っていた「最初の3行を書くのに5時間かかる」という言葉。特に、特集制作時には、そのたった3行が私たちが広報担当者にとって重くのしかかります。伝えたいことは何なのか、分かりやすく伝えるにはどんな言葉にすればいいのかと、考えれば考えるほど、その書き出しに迷いが出てしまいます。公文書のような硬い文章で、ただ伝えたいことばかりを書き連ねても、読んでもらえなければ本末転倒です。たとえ市民の皆さんが欲しい情報だったとしても「伝え方」が悪ければ情報は伝わりません。



2017年
9月1日
第152号

「その瞬間はやってきた」という見出しで「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録決定をお知らせ。あらためて、新原・奴山古墳群の価値と、未来への展望を特集しました。



2016年
12月1日
第143号

「NO!障がい者差別」をテーマに、障がいのある人々の人権と、共生社会について考える全26ページの大特集。県の審査で最優秀に選ばれ、全国広報コンクールでも特選(総務大臣賞)を受賞しました。



2015年
1月1日
第120号

福津市誕生から10年間のさまざまな出来事を「福津市10年のあゆみ」としてまとめました。また、市制10周年記念事業の一つとして「10」に関する嬉しい情報「HAPPY 10」を募集しました。



2013年
5月1日
第100号

創刊から100号目の節目に「ふくつの広報を振り返る」特集を組みました。福間・津屋崎町どちらも「公民館報」をベースにとしてきたことなど、各町の創刊号や最終号の広報紙を振り返りました。



2005年
1月24日
創刊号

福津市の誕生に合わせて創刊号を発行。福間・津屋崎町にまつわる「ものがたり」の紹介や新市の建設計画の内容、福津市に寄せる住民の期待の声などを取り上げました。

広報ふくつの
あゆみ

History of
Public Relations

創刊から16年
節目の広報紙を
振り返ります

インターネット社会に
唯一無二の広報紙を

日本全国には現在、およそ1720の自治体があり、その市町村ごとに広報紙があります。広報紙は、その「まち」にしかない情報紙です。もちろん、まちな情報を提供するにはさまざまな方法があります。近年では、スマートフォンやパソコンが普及したこともあり、即時性のある広報媒体としてホームページで情報提供を行っている自治体がほとんどです。何せインターネットを通じて、いつでも瞬時に世界中の情報が手に入ります。しかしながら、情報収集の方法が少しずつインターネットに変わってきているといっても、それだけでは情報を手に入れない人もいます。広報紙やイ



ンターネット、閲覧板など複数の媒体で情報発信を行い、時にそれらを組み合わせることで多くの人に情報を届ける工夫が必要です。インターネット社会だからこそ、どこの市町村でもそこにある課題、人などをテーマに取り上げ、多くの人に読まれる広報紙を目指しています。

市部1位
「福津市」が全国へ

その広報紙を専門家の目から見て、審査するのが広報コンクールです。このコンクールには「広報紙」「ウェブサイト」「広報企画」などのさまざまな部門があり、令和3年全国広報コンクールの福岡県審査「広報紙部門（市部）」で広報ふくつ12月1日号が1位となりました。広報紙は決して、行政だけで作られるものではありません。前のページで紹介したように、たくさんの方々が関わり、広報ボランティアの皆さんをはじめとしたさまざまな人の協力が必要です。また、紙面の中で語られる市民の皆さんの思い、熱意などが大きな力を発揮しています。何らかの賞を獲得したわけ

皆さんに
一番身近な情報紙に

毎月、月末になると届く広報ふくつ。当たり前が届くその紙面に、市民の皆さんの記憶に残る「今」を伝えるため、紙面充実の試行錯誤を続けていきます。これからも広報ふくつの「主役」である皆さんの笑顔やがんばっている姿を紹介することで、皆さんがもっと福津市が好きになって、もっと福津市を誇れるような、そんな広報紙づくりに取り組んでいきます。



ではありませんが、今回、このような評価をいただいたのは福津市役所ではなく、市民の皆さんを含めた「福津市」なのです。

広報ふくつが
できるまで

Creation process

広報ふくつの
作成過程を紹介します

① 情報収集・企画・構成

市役所内の各部署からの情報や、市民の皆さん、外部の団体などから掲載依頼のあった情報を集めます。特集テーマ・内容を考え全体のページ数などを企画書にまとめ、レイアウト用紙に紙面をイメージしていきます。



② 取材・文章作成

集めた情報を基に、取材に出掛けたり文章を書いたりします。人物や風景などの写真撮影に加えインタビューすることもあります。



③ 編集・校正

パソコンを使って、デザインしていきます。レイアウトを微調整しながらデータを作成し、印刷会社に入稿。専門家のデザインが加えられた後、何度も読み直して修正を重ねていきます。



④ 印刷・製本・配布

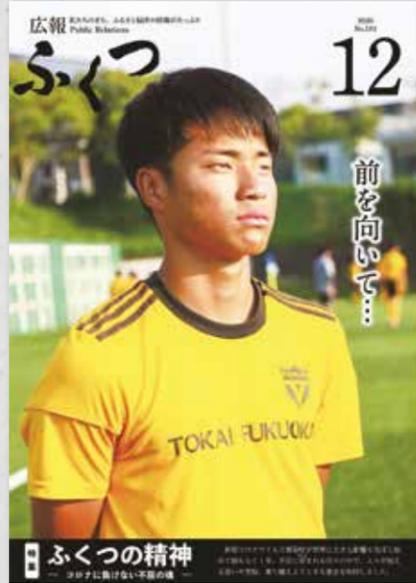
印刷会社で印刷・製本後、完成。月末までに各家庭に配布します。



▲こうして完成した広報ふくつ9月号

広報ふくつ12月1日号が

自治体の広報紙の出来栄を競う全国広報コンクールの福岡県審査で2020年広報ふくつ12月1日号が広報部門の福岡県代表（市部1位）として推薦・出品されました。



全国広報コンクール
福岡県代表として推薦されました

取材を
終えて

コロナ禍の市内の状況と、不安に苛まれる日々の中で、人々が抱える思いや苦悩、乗り越えようとする意志を取り上げた2020年12月1日号。今回、全国広報コンクールに推薦・出品されましたが、残念ながら入選することはできませんでした。結果が発表されたとき、悔しい思いより、評価していただいたこと、取材に協力いただいた皆さんへの

感謝、そして「次もがんばろう」という意欲が湧きました。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。毎号、時間との闘いの中、企画や文章ができないときは夜も眠ることができません。それでも、今よりもっと充実した紙面を目指し、市民の皆さんが「いいね」と思える広報紙をつくるため努力していきます。